

島根県立宍道高等学校 F T A の実践

1 島根県立宍道高等学校 F T A の特徴

本校の生徒には未成年者だけでなく、独立した生計を持つ成年者もいます。そのため、親を意味する「P」でなく家族 family を意味する「F」をつかって、F T A としています。学校と家族が協力して学校教育の充実を図り、生徒の健全な心身の発達に努めることを目的とした組織です。

2 特色ある取組

(1) 取組の概要 (ねらい)

自らの生き方や他者との関わりなどを考える機会を持つため、保護者（家族）、教職員等を対象とした講演会を開催する。

(2) 取組の詳細 宍道高等学校 F T A 講演会

ア ねらい 児童虐待の実情や、子どもへの対応について保護者・教職員がともに学ぶことで、今後の教育活動や望ましい人間関係を築く一助とする

イ 期 日 令和5年11月11日（土）

ウ 会 場 宍道高等学校体育館

エ 内 容 （一財）児童虐待防止機構 オレンジC A P O 理事長島田妙子さんによる、アンガーマネジメントに関する講演。演題は「大人が元気で子どもも元気～輝く未来のために～」。
保護者の感想を次ページに記載。

(3) 取組を終えて (成果と課題)

実体験を交えたアンガーマネジメントについての講演で、事後アンケートでは好意的な回答が多かったことから、参加した保護者・教職員ともに充実した時間を過ごすことができたことがうかがえた。

「怒りの正体は こうあるべき と感じる自分である」というお話からの気付きがあり、「べきの境界線を広げていこう」「怒ったことを付箋に書いて貼る」といった具体的な心のあり方、取り組みも示され、これからの教育活動や日頃の生活に取り入れていこうと感じさせる事柄も多かった。

「生徒にも聞かせたい内容だった」「子どもと一緒に聞ける講演会を開いてほしい」といった意見もあり、折角の機会に広く参加者を広げていくことも大切だと感じた。

R5年度 FTA講演会 保護者感想より

妙子先生の 虐待話も苦勞話もずっと明るく話しておられたのに、マツハ先生との出逢いの話のときだけ 表情が変わられたのを見て、本当に良い出逢いをされたと思いました。昔と違い、環境も良くなりましたが 自分が変わらないと何も変えられないことを 改めて知りました。

今回の講演会の内容を早速実践しようと思いました。実践する事で、自分自身も気持ちに整理がつき、子ども達への接し方もかなり変わるのではないかと思います。島田先生の凛とした姿、明るい話し方からは、あんなに壮絶な人生を歩んで来られた事が想像出来なくてとても驚きました。同じ女性として凄く素敵な人だと思いました。とても元気を貰う事が出来ました。ありがとうございました。

親が元気であることが大切であること感じ、やる気は、はじめないと出ないということが印象に残りました。アンガーマネジメントについても、何度か学んでいますが、感情のまま怒るのではなく、立ち止まって、冷静になって考え、行動していきたいと思います。

アンガーマネジメントについて、ご自身の経験から必要性を説明されましたが、怒るのは怒るという選択をあなたがしている、という言葉にわたしと同じ意見だと思いました。わたしも怒る時に、「あ、また自分で選んでしまった」と感じています。感情を付箋に書くことはやってみようと思います。

島田さんの中学生の時の先生の話に感動しました。大変な体験をされても、明るく元気に話される姿にすごい方だと思いました。怒りのコントロールの話もよかったです。こだわりを持っていてもまあいいかと思えるように、周りに頼りながら、優しい社会になればと思いました。

アンガーマネジメントについて、ご自身の経験も交えながら、とてもわかりやすく、興味深く聞かせて頂きました。子どもが元気であるために、親が自身のアンガーマネジメントをして、楽しく元気に過ごしたいと思いました。